たインド・ネール首相、インドネシア・スカルノ大統領、中華人民共和国周恩来首相、エジプト・ナセル大統領が中心になって開催を目指し、アジア・アフリカ会議としてその第一回をインドネシア・バンドンで開催された。

参加国の多くは第二次大戦後にイギリス、フランス、アメリカ、オランダ等の帝国主義を標榜した欧米諸国の植民地支配から独立した国々 29 ヶ国が参集した。

我が国はオブバーサー的であったがスカルノ大統領やネール首相の招請があり鳩山首相代理として高崎達之助氏が代表として参加した。

〇会議の精神と標榜

１，反帝国主義、反植民地主義、民族自決

２，アメリカ（西側諸国）、ソ連邦（東側諸国）のいずれにも参加しない第三世界を形成する。

世界平和と協力の推進に関する宣言「バンドン**十原則**」(ダサ・シラ・バンドン）を決議し世界に向かって第三世界確立を宣言したが、第二回会議を 1964 年に予定したが、第三世界同士の紛争や、国内問題が多発し、二回目は開催できず､その後も現在まで開催されないし､第三世界という言葉も使われなくなってしまった。

この会議開催中、秘密裏に高崎代表と周恩来首相の接触があったらしく、互いに友好関係を温め、日中の数少ないパイプの役を果たし、いわゆる「井戸を掘った人」になった。

◎高崎達之助（1885 年 2 月 7 日～ 1964 年 2 月 24 日）大阪府高槻市出身水産講習所（東京水産大学、合併により現、東京海洋大学）卒

メキシコで缶詰会社を設立､その後満州で各種事業を行い、満州重工業副総裁に就任、1942 年鮎川義介総裁に替わって総裁に就任、1945 年敗戦、日本に引き揚げ　1952 年、吉田首相に請われて「電源開発」の初代総裁になり、木曽川の丸山ダム建設現場を視察して余りにも旧式な作業方法に驚き､総裁自ら技術者を引き連れてアメリカへ行き、カルホルニア州バインフラットの建設現場で重機械が能率良く動き回るの直接学ばせ､以後日本の建設現場には重機は多数導入されるようになった。この好例が佐久間ダム建設で難工事が予想され完成まで 10 年としていたのが 3 年で完成した。当時は「高崎マジック」と言われたが、続いて行われた奥只見電源開発の只見川田子倉ダムや庄川の御母衣ダム建設の事業計画は高崎総裁が立案したモノでしたが 1954 年総裁を辞任、鳩山総理に請われ経済審議庁庁長官に就任、この時は民間人であったが、1955 年第 27 回衆議院議員選挙に大阪 3 区から出馬、最高点で当選した。その後、第二次鳩山内閣で経済審議庁長官に引き続き就任（現経済企画庁）この年バンドン会議に日本代表として出席、周恩来首相、ネール首相、ナセル大統領等と親交を深めたという。

この時芽生え友好関係がやがて日中国交正常化友好条約となって花開くのだが、翌年 1956 年、日比賠償協定の首席全権を務め、日比国交正常化の実現に当たった